

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業大学校費

事業名 **新** 農業大学校畜産エリア環境整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農業大学校 畜産課 電話番号：0574-62-1226

E-mail：c24405@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 34,600千円 (前年度予算額：0千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	34,600	0	0	0	0	0	0	0	34,600
決定額	9,100	0	0	0	0	0	0	0	9,100

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県内での豚熱の初発を機に農業大学校畜産エリアの衛生管理区域を設置したが、既設施設の位置関係等からクリーンゾーンとダーティーゾーンの区分けが曖昧な部分があり、交差感染等による農場内への家畜伝染病の侵入リスクが極めて高い状況にある。また、エリア内には老朽化した施設が多く、経年劣化が激しい施設も多数ある。そのため防疫施設の新設やエリア内の老朽化施設の改修・移転等を順次実施し、家畜衛生管理の強化を行う必要がある。

(2) 事業内容

○畜産更衣棟の建築

家畜防疫対策のため、男女それぞれ更衣室を設置し衛生管理区域内外で衣服を区分する必要があるが、現在の更衣する場所が既設の建物を転用しているために衛生管理区域内にあり、人が家畜伝染病の原因ウイルス等を農場内に持ち込むリスクが高い。厳格な家畜防疫対策のために、令和4年に畜産更衣棟を建設する。

○機械庫の建築

機械庫は、畜産と園芸共用の施設で、機械の出し入れ等の動線が畜産機械とその他機械と分けることができないので交差感染のリスクが高い。また昭和45年建築で経年劣化が進んでいる。屋根の一部、樋の欠落、扉の錆等も著しい。また、農業用機械は近年大型化しており、昭和45年の規格のため出入口が狭く、大型化した農業用機械の出入りに支障をきたしている。このため、令和4年に機械出入り口を分け動線を分離した機械庫の建て替えを行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10（県有公共施設であるため）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	56	事務費
役務費	14	事務費
委託料	22,870	既設解体業務、畜産更衣棟設計、機械庫設計、地盤調査業務
工事請負費	11,660	旧豚舎解体工事 2,860、旧機械庫解体工事 8,800
合計	34,600	

決定額の考え方

畜産更衣棟の建築に必要な経費を計上します。

その他の工事等は、衛生管理区域を飼養衛生管理基準どおりとすることを前提に再検討し、R4年度以降に検討することとします。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

・長期構想

Ⅱ－2 儲かる農業・林業・畜産業を実現し、持続可能な農山村をつくる

・農業の担い手を育成・確保する

・ぎふ農業・農村基本計画

4-3-1 意欲ある新規就農者の育成・確保

・農業教育での就農等支援

(2) 国・他県の状況

・岐阜県を含む42道府県が農業大学校を設置

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/>	新規要求事業
<input type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

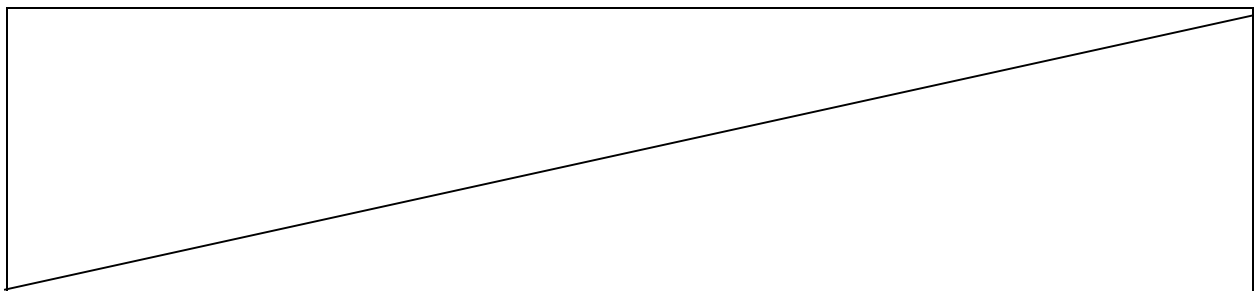
・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 畜産エリアを飼養衛生管理基準に準拠した区域として整備するとともに、高度な飼養衛生管理の最新技術を学ぶカリキュラムを充実し、畜産業界への就業や雇用を志す学生を輩出する学校づくりをすすめる。
 それにより、入学者を維持、卒業生を新たな担い手として育成し、多様な担い手づくりや売れるブランドづくりなど県施策の推進を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

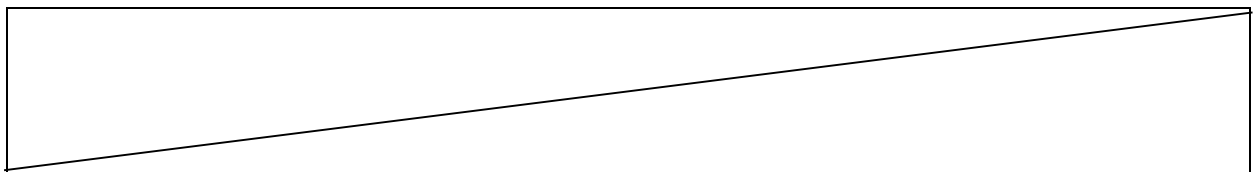
指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
		(H29)	(H30)	(前々年度末時点)		
畜産卒業生の就業率（農業系企業含む）	25%	88%	75%	40%	50%	—
	(H29)	(H30)	(H31)	(R2)	(R3～)	

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）



（前年度の成果）



2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	